

ノーサイド

禍害と被害を超えた論理の構築

(3 1)

中村周平

今回も、前々回に引き続き、突然起こった首の痛みと、その経過について触れていきたいと思います。

以前からお世話になっていた、鍼灸の先生のごことは短信や事故からの経緯の中で触れてきたと思いません。

事故の1ヵ月後から、入院中の病室まで往診に駆けつけてくださった方です。ご自身も私と同じ怪我を負われた経験があり、その経験がきっかけとなって、鍼灸という仕事を始められました。受傷当時から私の身体的なことだけではなく、私や私の家族の精神的な部分を支えてくださった方もあります。年齢と、今後も継続的に私の身体のケアをしていく理由から数年前から後継者を探しておられました。

現在は、後継者の弟子の方に身体のケアをお願いしていますが、私の将来について相談にのってくださるなど、鍼灸の先生との関係は今でも続いています。私にとっては、もう1人の父親のような存在だと感じています。

首の痛みが出始めてから1ヶ月が過ぎようとしていました。私自身でリサーチし、把握できたことは

いくつかありましたが、どうすれば改善に繋がるかは全くわからない状況でした。誰か頼れる人は…そんな時、真っ先に頭に浮かんだのが、鍼灸の先生でした。弟子の方に治療を引き継いでからも、身体を診ていただいたり、食事に行ったりと何度か顔を合わせていましたが、このような緊急？で連絡を取ったのは初めてのことでした。そして、状況を確認するため、自宅まで往診に来ていただけることになりました。

往診当日、ベッドで痛みの原因を探っていくことになりました。痛みが出始めた時期、痛みの範囲やその他の症状等を伝え、実際に身体を診ていくことに。痛みの出やすい姿勢や、逆に痛みの出にくい姿勢、頭の位置や身体の角度等を確認していくことで、状況を把握していられました。

「おそらくやけど、頸椎のどこかで軽い狭窄を起こしているんじゃないか。」

先生の見立ては、このようなものでした。そして、今の症状に合わせた治療を行ってくださいました。

「往診でできることは限られているから、一度治療院の方に来てもらって、もう少し継続的に治療していこう。」

最初の往診で、痛みが完全に取れることはありませんでしたが、部分的な発汗や腹部の震えは不思議なことにピタッと治まりました。また、数日後の治療院での治療によって、痛みもほとんど感じなくなるまでに回復していました。

「原因は、車いす上での姿勢やと思う。」

これは、以前から鍼灸の先生に指摘されていたことでした。

障害を負ったことによって、体幹機能(腹筋や背筋など身体の姿勢を変えたり維持したりする機能)が麻痺してしまい、車いす上での私の姿勢は顎を前に突き出したような不自然なものでした。顎を後ろに引くと、前に倒れてしまいそうになるので、その姿勢になってしまっていたのですが、それがこの16年で癖のようなものになっていました。

この不自然な姿勢は、頸椎のいくつかの箇所本来の動き方とは真逆の負担がかかってしまいます。また、これまで行っていたマウススティックを口に咥えてPCや携帯を打つ動作の姿勢も同様のもので、首にかかる負担が徐々に大きくなっていったんだと思

います。つまり、この16年間の癖や日常生活での負担が蓄積し、ある日痛みとなって現れることになりました。

鍼灸の先生による治療と、日常生活での姿勢の改善等によって、首への負担や痛みは格段に解消されることになりました。また、ヘッドレスト(車いすに装着するパーツで、後頭部に装着するもの)を付けて頭の重みを分散して、首への負担を減らすという鍼灸の先生からのアドバイスも非常に役立ちました。

1ヶ月以上続いた痛みや不安から解放され、気持ちは非常に晴れやかなものでした。しかし、これまでマウススティックを咥えて行っていた動作は、痛みの再発になるため、出来なくなってしまいました。それは、その動作で10年以上、PCへの打ち込みや研究活動を行っていた私にとって、とてつもなく大きな問題となりました。